

### 第3回夕張市高等学校対策委員会会議録

- 1 日 時 平成25年5月23日(木) 午後6時～午後7時10分
- 2 場 所 夕張中学校 2階 多目的室
- 3 出席者 大山・鈴木・馬淵・松倉・西・南條・白井・有村・小林委員
- 4 委員長挨拶 小林委員長
- 5 報告事項
  - (1) 委員の変更について
  - (2) 平成25年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会について

#### 6 意見交換

委 員

中学校の在籍者数についてきちんと押さえさせていただければと思います。

3年生については50名で、当初は51名でしたが、つい先日転校生が1名おりまして50名となっており、内1名が特学、2年生については63名、内特学が2名であります。1年生につきましては41名、内特学の子が3名となっております。

現在の中学校の様子ですが、先週修学旅行に行きまして、今週から早速1回目の進路面接を開始し、一人ひとりと話し合いをさせていただいているところであり、将来を見越してどういう希望を持っているのか、現段階においてのどんな進路希望を持っているのかの話をしているところで、なんとか今月いっぱい、あるいは6月の初めの段階ですべての面接を終えて、終わった段階で進路調査を行いたいと考えております。

3年生は特学を入れて50名という体制ですから、子どもたちまだ非常に迷っているというのが正直な状況であります。

希望としては色々な希望を持っているが不安もある。それから間口のことについても情報だけはきちんとお知らせするというので、保護者向けの学校便りあるいは子どもたちに連絡しておりますので、正直なところ部活等もあるのですが市外に行きたい、ずっとスキーをやってきてこれからも続けていきたいですとか野球で頑張っていきたいなど、今のところは非常に様々な要望が出ております。

全体として大雑把な見込ですが夕張高校への希望は7割前後かなと思っておりますが、ただ今後特に夏休みをひとつに現実的な選択に変わっていくというのが通例で、9月に第2回目の個人面接を行い、それを受けて10月、11月に保護者説明会等を行った上で12月に最終的な三者懇談会でここがどの程度動いてい

くかということになるかと思えます。

前年度から夕張高校の校長先生からも色々なお話しをいただきまして、今年度については保護者あるいは子どもを含めた形で今まで行っていたオープンスクールの学校公開を行っていただいで授業体験をさせていただいたり、あるいは授業の様子を見せていただいで高校の説明会を開いていただけるといお話もあり、まだ期日など細かなつめは行ってはおりませんが、できることであれば高校の先生に中学校へ来ていただいで出前授業をやっていけないだろうか、あるいは生徒会を中心とした様々な活動に、あるいは部活動も高校部活動とも連携して一緒に練習を行っていくとか、子どもたちの高校の理解を進める上で最終的にできるようにしていきたい。

また、保護者の方々に対してもそういったPR活動をこれから行っていききたいと思えますし、それと一緒に現実的な現状あるいは他市町村の状況なんかもこの後6月の様々な学力評価の状況が分かってまいりますので、このような状況もきちんと保護者の方々にも接しながら進路選択を進めていきたい。

これからも夕張高校とは色々な面で、こういう場合夕張高校ではどのように対応していただけるか等、細かなこともお話しさせていただきながら、良いところは良いところ、どんどんお伝えしていきながら進めていきたいと考えております。

現在の状況はこのようなところであります。

## 委員

ひとつ目に、私からは今年の1年生について私がとらえている感想含めて報告をしたいと思えますが、当初お話しをいただいでいたので正直大変なのかなという想いはありましたが、授業にしてもその他にしても心配はないという風に思っております。これは中学校での指導によるものと思っております。

実際に教育長、課長に公開授業を見ていただきましたが、1年生についてもなかなか食いつきが良い。

二つ目ですが、今持っている人、物、金の資源を総動員してどうやって学校経営するか、どうやって子どもたちを育てるかをしなければならないわけですが、先生たちは大変良く教育実践してくれている。

高校としては、前にも申し上げましたが、特色ある、魅力ある学校づくりを主体的に行っていかなければならないということで、改めて今までの教育実践がどうであったのか、見直しをかけて現在のところその改善に努めているところであります。

なぜ今年が今まで7割から8割程度来ていただいでいた中学校3年生の生徒さんが減ったのか、これは中学校側に責任を求めるのではなくて高校として今までどうだったのか、たとえば行きたい学校、卒業して良かったと思える学校にしていきたいという想いでおります。

以前は学校体制そのものがなかなか整っていなかった。学校全体で教育を押し進めるといふふうにならなかったのだろうかと私は感じております。

そこで、たとえば進路指導の3年間にわたるデータを基に計画をきちんと持って、学校全体としてまずは整備していこうと考えているところです。

具体的例としては、インターンシップも希望者だけではなく、今年度からは学校行事として取り組んでいくというように教育活動を前進させる上でなかなか色々な事情があって体制が整わなかったが、その中でも進路決定率が100%だとか、希望する大学その他のところに行っているという実績はありますから、これはそのような中でも個々の教職員が頑張った結果だろうと思います。それを最大限生かすためには体制をしっかりしていくことが大事であるということで去年から見直しをかけつつ進んでいるというところでもあります。

最終的に高校を選択するのは中学3年生のお子さんであって、選択していただけるような取り組みを高校として行っていたのだろうか、という想いがあります。

たとえばオープンスクールにしても2年前から行っておりますが、他の地域では随分前から行われているものであり、取り組みをしなくても来ていただけたという甘えもあったのかなとも思っておりますので、オープンスクールを2年前から行ってはいますが、それだけでは全然足りなくて、やはり、直に中学校のお父さんお母さんや中学校の先生方に、ほかへ行かなくてもここで十分お子さんの教育目標は達成されるという説明が不十分だったのだろうかという想いがあります。

それから、高校の授業はこういう授業だというのはオープンスクールだけで、高校から出向いて授業をやらせてもらうことはどうなのだろう、あるいは好き勝手に生徒が中学校に顔を出して、ある意味では迷惑をかける場面もあると思うので、きちんと部活動交流なり生徒会が行って高校のPRに努めていきたいということで両校の教頭を窓口として取り組んでいるところでもあります。

今年も一生懸命取り組みを行って最終的にどれくらい来ていただけるかというのは結果論であって、そのプロセスが大事だと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長            ありがとうございました。それでは先ほどの私の報告も含めて質問等ありましたらお願いいたします。

委員               先ほどの委員長からのお話しの中で、来年の夕張高校1間口に成りそうな感触を受けているとお話でしたが、それは2間口募集して結果として1間口になった今年のような1間口なのか、基本的に道教委が夕張高校は1間口だということかどういった感触なのでしょう。

委員長           道教委は、今までのデータを全部持っていますので、この程度のパーセンテージ行くだらう、その上で1間口なのか2間口なのか3間口なのか、こういう見方をしている。

昨年、夕張の場合だけで言うと、中学校3年生が58名いたのが結果として募

集定員 80 名に対して 39 ということになりました。

そのパーセンテージを置いたとしても今年度特別支援学級 1 名をのぞいて 49 名、8 割で計算しても 40 名にはならない状況であります。

この辺を見計らっているので、夕張市のケースの場合だろうなという回答でしたし、南幌や栗山も同じような傾向があつて、そういうような回答をしておりますので、2 間口あつて 1 間口ということは難しいのではないかという今の所の感触であります。

委員

というのは、来年は 49 名という微妙な数字で今のようなお話しになるのだと思いますけれども、27 年度が今 63 名という数字がありますけれども、一度 1 間口になって 60 名と言う数字を見て 2 間口にしようということは考えられるのでしょうか。

委員長

それは、道教委は基本的には先ほどお話ししたとおりの観点でいきますので、当然 2 間口に戻してほしいという要求はすべき問題であろうとは思っております。

私が去年の検討委員会でもお話しさせていただいたのですが、夕張の場合はこの地区に高校が無くなれば市外に行くとする下宿か何かしなくては行けない状況であり、そうすれば当然のことながら、先ほど言った道教委の補助制度が多少あったとしても断念せざるを得ないということが必ず出てくる、そういった意味からすれば数の検討材料としての中学卒業生の推移ですとか流れですとか、そういったことについては十分推し測って行っていただきたいということです。これからの話になってきますけれども、今後具体的な 27 年度の 63 名、特別支援入れて 63 名ですが、このところは元に戻せという運動になってくるとは思います。

委員

委員長のお話しに関わって、間口が 1 から 2 に増えることがあるのかという委員の質問であると思いますが、過去に戻した例はあります。

私が羅臼で教頭としていた時、あの地域もここから高校が無くなると、行くのは中標津になるのです、片道 100 km ほどありますけれども、羅臼高校は戻しているんですね 2 年くらい前に、それから浜頓別高校も間口 1 から 2 に戻している。

この間の 2 回目の検討会議で道教委は、そのように戻している例があるので、確約は現段階ではできないけれども、そういうケースはあり得るということです。

夕張の 27 年度の場合は戻してもらわなければ困るわけです。

委員長

今日はこの後話は進まないのですが、私のこの間の発言の中にあつたように、これからの夕張高校、普通科として存在している訳ですが、キャンパス校になろうが一定程度進学にもそれなりに応えられるし、就職にも応えうる高等学校にし

ていただきたい、ここの部分は今までずっと夕張市内の高校の問題を扱ってきたときに、あるいは一緒になるときに言い続けてきたことであります。

ですから、この部分については皆さんに賛同いただけると思って私も発言してきたのですけれども、まずその点確認をしたいと思います。

三笠のように特区のような特化された調理科を造りました、でも現実的に市内の中学校卒業生というのは2・3人くらいです。ですからそれ以外の中学生は市外に出ているというのが実態ですので、夕張を何か別な特化された教科にもっていくということは、現実的にできないだろうと思っております。

したがって、何としても規模が小さくても北海道の高等学校というのはこれだけ過疎化が進んできていますから、夕張みたいな高校はたくさんあるのですけれども、逆にそういった小さな学校をなんとか地域も含めて盛り上げていく、そのために道教委もお金をつぎ込んでほしいという基本的な考え方できたつもりであります。

そのところはぶれないでやっていただかなければならないと思いますがその点いかがでしょうか。

それと心配なのは、あまり考える必要はないのですが、熊石高校の例で見られるように、1学年20名を割ったら原則廃止、多少地域とはお話しするのでしょうかけれども、そんな問題がここ数年の内に発生するとは思いませんけれども、昨年度生まれた市内の0歳児は33名であります。ですからこの子たちが高校に行くときに、あるいは中学校を卒業するまでにどの程度残っているのかを考えると、先ほど言った20名以下というのは考えられないことはない、それはもう少しうしろの方で生じることですけれども、この辺も今後進めていく上では、地域の声を聞いてくださいということで、物申していかざるを得ないのかなと思っております。

委員

意見ではなく質問ですがよろしいでしょうか。

夕張のこういう地域性や、夕張で中等教育を残していきたい、しかも区域の担い手を育てるといような感じで、ここをきちんと残していきたいという基本コンセプトは良いと思いますが、ただそういったときに三笠のように何か特殊性を持たせて、結果市外から人は来たのだけれども地元の子どもの希望、進学に応えられないというのであれば、そこまでして残す必要があるのかどうかという議論になってしまう。

問題はそういったことを考えた時に、今は当然道教委の配置計画で出ていくと一番びったりくるのはキャンパス校ですが、ただ、この間いただいたパンフレット2012のものですが、この中高一貫教育というものはいったいどの規模の、見るとそんなに大きな学校ではないです、これは一体どんなメリットがあって、どのくらいの規模がこうやっていて、こうやることによって、メリットは書かれていますけれども、読む限りではあまり良く分からないですね。

ただそうなってくると、先ほどの話でもありましたが、中学校との連携を行っていきたい、小学校は小学校で実は中学校と連携を行っていききたいとは言っているのですが、でもそこを中学校、高校で連携を取って横で夕張としての中等教育の豊かさが出てくるのではないだろうか。

こっちの方向性というのはないものなのかというのが疑問なのですが、これはどういう形で、どういう部分がこれに当てはまって、どのような効果があって、キャンパス校はこの間の話を聞く限りでは、やっぱり人が足りない、人的な人が足りない、もちろん選択できる教科も少ない、だから近隣の大きなところから先生が週8時間だけ来る、というところで発展性がないように聞こえてしまう。

実際に熊石は、聞いた話では決定した次の年の入学者は3名ですとか、次の年は6名、そういうようになってしまって、外部へ出て行ってしまっているということもあるので、中高一貫の連携型になると思うのですがけれども、この辺の情報があれば、これは夕張高校の未来、将来的にまったく入ってこないものなのかどうかも併せてお聞きしたい。

委員長 私を知り得ている情報の中では、基本的には連携型は夕張の場合は無理ではないのかという話は一昨年あたり、道教委に問い合わせた時には連携型はもう終わっているのかなという感じでした。

パンフレットを見ていただくと分かるように、平成19年度で止まってしまっております。ですから連携型は今後予定していなくて、今度札幌でできるようですが、一体型のものあるいは併設型のものを考えているようであります。

委員 そうすると連携型は効果がなかったということでしょうか。わかりました。

委員長 それでは、先ほど委員から言われておりました来年度の間口の問題、27年度の間口の問題、これをなんとか27年度の2間口維持という流れの中にもっていくためには、今年度あたりから少しずつ準備をして来年度大きな力を蓄える、そのためにはまた25年度の地元の進学率を高めなければいけない、という問題も出てくるのではないかと思いますので、今回は計画案が出て即この委員会を開きたいと思います。

今後の進め方については次回の対策委員会だと思いますので、よろしくお願いたします。

その他なければ本日は以上で終わりたいと思います。

## 7 その他

事務局 次回の対策委員会の開催日程についてであります。平成25年度の公立高等学校配置計画地域別検討協議会の第2回目が、去年ですと7月19日に開催されておりますが、今年についても同じ頃に開催されると思われ、そこで、その

協議会が終了の後7月の下旬頃になるかと思いますが開催を予定したいと思  
います、決定いたしましたらなるべく早いうちに皆様にはお知らせしたいと考  
えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長

第2回目の検討委員会から決定までに2週間くらいしかなかったと思  
います。今年は何日に開催されるか分かりませんが、決定が8月上旬だと思  
いますので、なるべく直近で、なるべく間を空けないでこの4回目の会  
議を開きたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願いいたします。

## 8 閉 会

### 配布資料等一覧

- 資料1 夕張市高等学校対策委員会委員名簿
- 資料2 平成25年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第1回）
- 資料3 北海道の新しい高校づくり2013